

R 7 年 度 会 派 議 員 派 遣 報 告 書

会 派 名	創生みはら
議 員 名	分野 達見、中重 伸夫
議員派遣先名	宇都宮市 ライトキューブ宇都宮

派遣費用

科 目	支出額	摘 要
研修・研究費	1 8 8, 5 2 0	旅費、宿泊費、日当
研修・研究費	2 6, 0 0 0	受講料 1 3, 0 0 0 × 2 人
研修・研究費	8 8 0	振込手数料
合 計	2 1 5, 4 0 0	

1 三原市での課題と派遣の目的（本市の現状と課題を明確に）

人口増加に伴い周辺部に住宅を拡大したが、人口減少により市内中心部の空洞化と周辺部の生活利便性が大きな課題となった。中心部へのコンパクトで持続可能なまちづくりの方向性についての講演に参加した。

2 実施概要 （1カ所目）

実 施 日 時	派 遣 先	宇都宮市 ライトキューブ宇都宮
R 7 年 1 0 月 9 日 ～ 1 0 日	担当部局	主催 全国市長会
報 告 内 容 ・ 所 感	第 8 7 回 全国都市問題会議 成熟社会の都市のかたち ～コンパクトで持続可能なまちづくり～ 人口増加に伴い郊外への住宅地拡大に連動して、商業施設や学校などのまちづくりが周辺部に拡大したが、人口減少に伴い中心市街地の活力低下や空き家・空き地の増加、周辺部の公共交通機関・地域コミュニティの衰退が課題となった。 今後は郊外への人の流れを中心市街地へいかに誘導して、住宅や商業施設を	

	集約することが重要である。 宇都宮市では市街化調整区域と居住誘導区域を定め、公共交通機関の利便性の高い地域への住宅・医療・子育て施設などの集約を展開している。 一方で中心市街地の活性化策を論じると、地域を見捨てるのかとの不満が生じるが、３０年先、５０年先を見据えたまちづくりの必要性を丁寧に粘り強く説明する必要があると感じた。更に地域については決して見捨てるのではなく、その先に必ず活性化策を整えるとの説明が重要であると思われる。
市政に活かせること（まとめ）	三原市においても中心市街地の活性化は、３０年後を見据えて拡大したまちをどのようにコンパクトにしていくか重要な施策である。 しかし、老朽化した公共施設の存続、公共交通の維持、地域医療の確保など様々な問題があり、地域住民の最も不安な要素でもある。 そのためには、複合的な都市設計が求められるが、行政主導のみではなく地域住民や活動団体との対話型行政、信頼構築や信頼関係は不可欠である。 今回の講演を参考に、今後も持続可能なまちづくりについて積極的に提言をしていきたい。

※ 施設先の写真・資料等を必ず添付すること。